

# 二足のわらじ

リレーコラム 31

キャリアの積み方-私の場合

熊本再春荘病院小児科/認定 NPO 法人 NEXTEP

## 島津 智之

私は公的病院の小児科勤務医をしながら、NPO法人の理事長を兼務しています。NPO法人では、小児専門の訪問看護ステーションや居宅介護事業所を経営し、気づけば、NPO法人も36名の有給スタッフを抱えるようになりました。人・物・お金の管理から中長期的なビジョンまで、頭を悩ませることも増えてきました。

「両立、大変でしょ」とか「忙しいですね」と声をかけられることもありますが、自分自身にとっては、病院の仕事もNPOの仕事も自分のやりたいことであり、ライフワークなので、充実した毎日です。

小児科医になった頃は、医療の力で、子どもたちの多くの問題は解決できると考えていました。しかし、子どもたちを取り巻く社会環境は変化し、子どもたちの問題は多様化・複雑化してきています。病院や診察室で病気を診る診療だけでは対応が困難なケースも多く、小児科医がもっと地域へ出て行き、地域と連携していく必要性を感じています。社会の様々な問題や歪みが子どもたちやその家族を追い詰め、医療者だけでは解決できないたくさんの問題を生み出しています。そのような問題にアプローチする手段として、病院の小児科勤務医とNPO法人理事長の“二足のわらじ”があります。

認定NPO法人NEXTEP（ネクステップ）は、2000年に熊本県内の大学生が中心となって設立し、大学や職種、世代を超えた交流・学びの場創りを行ってきました。2009年にはNPO法人格を取得し、医療・福祉・教育等の問題について必要な事業を考え、農作業を通じた不登校児・発達障害児支援事業などをスタートさせました。その後、重い障害や難病のある子どもたちのサポート事業として、小児専門の訪問看護ステーション“ステップキッズ”、居宅介護事業所“ドラゴンキッズ”、障害児通所事業所“ボンボン”を設立・運営しています。

これまで、医療職だけでなく、福祉職、教育職、行政などとも連携して、多職種で地域の子どもたちを支えようという動きをすすめてきましたが、今後はその輪をさらに広げ、地域の企業や地域住民、大学生なども巻き込み、多くの人に困難を抱える子どもたちや家族の存在を知ってもらい、お互いが支え合うネットワークを構築していきたいと考えています。

様々な障害のある子どもたちは社会の中では最弱者にあたるかもしれませんが、そんな彼・彼女らの多様性が輝く社会こそ、私たちの目指す社会であると考えています。

## 〈著者略歴〉 島津 智之 (しまづ ともゆき)

福岡県直方市生まれ。

佐賀県私立弘学館高校、熊本大学医学部卒業。3児の父。

大学在学中の2000年、任意団体 NEXTEP を立ち上げる。

その後、小児科医として働きながら、NPO 法人 NEXTEP を立ち上げ、農作業を通じた不登校児支援事業、小児専門の訪問看護ステーション「ステップ♪キッズ」や居宅介護事業所「ドラゴンキッズ」の運営を行い、2015年には、障害児通所事業所「ボンボン」を開設。子どもたちを複合的に支える地域づくりを目指して活動し、熊本地震においても障害のある子どもたちを支える様々な支援を行っている。

### ～男女共同参画推進委員会より～

#### 「パラレルキャリア」

パラレルキャリアとは、ピーター・ドラッカーが著書『明日を支配するもの』等にて提唱しているこれからの社会での生き方の一つで、本業以外の仕事を持つことなどを言います。みなさんの周りにも、本業とは別の肩書の名刺を持っている人が多くなっているのではないのでしょうか。まさに「二足のわらじを履く」という言葉がぴったりです。大学勤務をしていると臨床・基礎研究・学生教育と自然と三足のわらじを履くこととなります。さらに男女共同参画社会基本法においては、「家庭生活における活動と他の活動の両立」が男女共同参画実現のための柱の一つとされています。家族としての役割を果たしながら、仕事や学習、地域活動等ができるようになることも立派な「パラレルキャリア」です。それには男女が対等な家族の構成員として互いに協力し、社会の支援を適切に受けることが重要です。パラレルキャリアの実践は、新しい人脈やスキル、知識、経験を本業に活かすことができ、仕事と生活の好循環を生み出します。今こそ個々においては時間のマネジメントをしつつ、社会の協力体制を整えるべきときではないでしょうか。